

9月になりました。牧師館前には、毎朝ポトポトと柀の実が転がっています。合同記念礼拝、そして幼稚園の園児募集の季節です。幼児からお年寄り、ご遺族の方々まで、喜びと平安があることをお祈りいたします。

### 過酷な運命

今朝の主イエスの例え話には、印象的な二人の人物が登場します。その一人目は、「神を畏れず人を人とも思わない裁判官」です。大ヒットする、ドラマや映画には、インパクトのある悪役がいると言われます。この例え話にも、なくてはならない存在です。弁護士や政治家、牧師や医者、教師、「先生」と呼ばれる人の中にも、とんでもない人が時々います。この例え話は、こういう人々を指しているのでしょうか。

ある神学者は、この悪い裁判官の正体は「運命」と言います。私たちが、人生を歩む中では、幸運もあります。しかし、心身ともに苦痛を感じる不幸としか言いようのない現実にもぶつかることもあります。自然災害は、お金持ちだけでなく、貧しい人や弱い立場の人にも容赦無く襲いかかります。この厳しい事実を、世の中は「運命」と呼びます。運命なら、どうしようもない、「渡る世間は鬼ばかり」ではありませんが、泣き寝入りばかりしていると、人はいつしか意地悪になり、人の幸せも喜ばなくなってしまう。

### 奇跡を呼ぶ祈り

この運命という強敵を、まさかという人物が撃ち倒したと話は続きます。それが、執拗に訴え続けたやもめです。古代パレスチナの社会で、最も立場が弱かったのは、病人と子供、そしてやもめでした。小さなネズミが、大きなゾウに勝利したのです。運命を変えた力は、「粘り強さ」でした。相手を、根負けさせたのです。

ある人は、このやもめは「教会」と言います。世の中には、もっと大きな団体や、クラブがあります。教会に集まっている人たちは、ごく普通の人たちです。しかし、そこには信仰という粘り強さがあります。周りに笑われたり、なかなか結果がでなかったりします。それにめげることなく、祈りによって運命までも動かし、困難を乗り越え、恵みと喜びに満たされる体験を教会は証しできるのです。

イエス様は、運命を動かせ、とダイナミックに語られます。しかしそれは二次的なことでしょう。一番大切なことは、神の愛があなたに伴っている、というメッセージです。だから、絶えず祈りなさい、と励ましてくださっているのです。「諦めたら、そこで試合終了だよ」という有名なセリフがあります。イエス様も、その言葉に頷かれるでしょう。「祈りは奇跡を生む」とも言われます。神の愛を、信じませんか。